

令和4年度事業計画書

循環型社会の実現に寄与するために、産学官民による共同研究体制でリサイクル技術や社会システムの開発を行い、その実践を支援する先導的な拠点であるセンターの取組として、研究開発事業や環境情報事業等を実施する。

1 研究開発事業

県内の共同研究チームが実施するリサイクル技術や社会システムの研究開発及びその成果の実践を支援する。

(1) 研究会の運営

産学官民の関係者による研究会を編成し、多角的な視点から実用化の可能性を検討する。

(継続テーマ)

- ・プラスチック再生材の市場・利用可能性に関する研究会 (令和3年度～4年度)
- ・SDGs 2「飢餓をゼロに」に向けて製鐵所副産物から製造する新規農業資材の活用技術開発研究会 (令和3年度～4年度)
- ・使用済みサーメットチップによる光熱変換材料研究会 (令和3年度～4年度)
- ・硅砂副生成物を活用した高取焼用粘土の開発研究会 (令和3年度～4年度)

(新規テーマ)

- ・糖含有廃棄物を活用した農業用土壌還元消毒技術の開発研究会 (令和4年度～5年度)
- ・大豆の増収を目指した剪定枝・草チップを原料とする堆肥の調製・施用サービス事業化研究会 (令和4年度～5年度)
- ・産業廃棄物を出発原料とした二酸化炭素の固体捕捉剤の開発研究会 (令和4年度～5年度)
- ・浮遊選鉱法によって改質した燃焼灰を使用したゾルリマコンクリートによる実建物の実証研究会 (令和4年度～5年度)
- ・消化汚泥からの緩効性肥料生産に関する研究会 (令和4年度～5年度)

(2) 共同研究プロジェクトの実施

事業化に向けた実証試験等の共同研究プロジェクトを実施する。

(継続テーマ)

- ・濃縮バイオ液肥製造に関する事業化プロジェクト (令和2年度～4年度)
- ・バイオマス発電所焼却灰有効利用プロジェクト (令和3年度～4年度)

2 環境情報等事業

環境リサイクル技術や社会システムに関する情報を発信するとともに、3Rに係る各種事業を推進すること等により、循環型社会の構築に向けた各関係主体の取組を支援する。

(1) ホームページの運営

センターにおける共同研究の成果や県内企業が保有する環境リサイクル技術等を、ホームページを通して国内外に情報発信する。

3 環境人材育成・ネットワーク事業

(1) 研究成果発表会

令和3年度で終了した共同研究プロジェクト及び研究会について、研究成果発表会を開催する。

(発表テーマ)

- ・廃棄キノコ抽出物による植物由来ヒト型セラミド製造プロジェクト (令和2年度～3年度)
- ・廃電池仕分け作業の自動化システムの開発プロジェクト (令和3年度)
- ・乾留技術を利用したタイヤ部材リサイクルの事業化研究会 (令和2年度～3年度)
- ・未利用アカモクからの化粧品・食品原料等の製品化を目指す研究会 (令和2年度～3年度)
- ・木質バイオマスを母材とする成型材料の開発研究会 (令和2年度～3年度)
- ・廃プラスチックを添加したアスファルトの舗装材料への利用研究会 (令和2年度～3年度)

(2) 展示会

エコテクノ2022(北九州市)など、県内外で行われる環境リサイクル技術等の展示会に出展し、当センターの事業成果の情報発信を行う。

4 プロジェクト事業

(1) 食品ロス削減推進事業

製造・流通・小売・消費の各段階で発生する食品ロス（食べられるのに食用にせず廃棄する食品）の削減を推進するため、次のとおりフードバンク活動及び生鮮食品ロス削減活動の普及・促進事業を実施する。

ア フードバンク活動の周知業務

フードバンク活動の認知度向上や企業等からの協力獲得のための業務を実施

イ 生鮮食品ロス削減活動の推進

令和3年度に作成した「生鮮食品ロス削減活動の手引き」を関係者へ周知し、生鮮食品ロス削減活動を推進する。

(2) リサイクル拠点化促進事業

センターの共同研究の実績やノウハウを多くの企業・自治体等に活用してもらうため、視覚的なメディアを活用した情報発信を行うなど、研究成果の全国的普及に努め、リサイクルの拠点化を図る。

(3) 県産リサイクル製品認定事業

生活関連用品を対象として平成27年度に創設された県産リサイクル製品認定制度の認定製品の利用促進を図るために、新たな認定品目の素案及び認定基準案を作成し、認定申請にかかる現地調査等を行う。

(4) 廃棄太陽光パネルスマート回収システム構築事業

使用済み太陽光パネルをコスト効率的に回収・リサイクルできる仕組みと体制を福岡県に構築し、太陽光パネルを廃棄から再資源化等に誘導することにより、不法投棄の抑制及び適正処理の推進を図る。

ア 太陽光パネル（P V）保守・リサイクル推進協議会の運営

イ 令和3年度に運用を開始した太陽光パネルを効率的に回収・リサイクルするスマート回収システムの利用促進

(5) 3Rネットワーク構築事業

センターを中心とした従来のネットワークを拡大・強化し、異業種間交流の促進による共同研究や新ビジネスの創出を目指す。

ア ふくおか3Rメンバーズの運営

3R関連事業や研究に関連する産学官民のネットワーク組織であるふくおか3Rメンバーズを運営する。

イ 会員の交流促進

会員企業の自主的なマッチングを促進するため、ニーズ・シーズ発表会や交流会等を開催する。

ウ その他

会員企業情報の提供、法改正や補助制度等の情報を提供するメールマガジンの発行、各種展示会の出展支援等を行う。

(6) プラスチック資源循環促進事業

プラスチックの排出者、処理業者、再生・利用事業者等と連携することでプラスチックを効率的に回収・リサイクルできる仕組みと体制を構築する。

ア プラスチック再資源化促進業務関係者会議の運営

県内のプラスチック類の処理業者、再生・利用事業者等から構成される関係者会議を開催し、実証実験の実施方法など、プラスチックを効率的に回収・リサイクルできる体制整備のために必要な事項について協議する。

イ リサイクルの各段階における実証実験の実施

自動車の整備・解体業者、処理業者、プラスチックの再生・利用事業者などが連携して、自動車内装材及びバンパー等のプラスチック類の効率的な回収・マテリアルリサイクルスキームの構築に向け、次に掲げる事項を目的とした実証実験を実施する。

- ・自動車部品プラスチック類の回収の効率化
- ・再生プラスチックの利用用途の拡大

(7) 車載リチウムイオン電池のリユース・リサイクル実証事業

北九州市で廃自動車のリチウムイオン電池（LIB）の取り外し（ロボット）から、劣化診断、放電、解体・選別（ロボット）、コバルト・ニッケル回収までの一貫処理について、CO2削減に資する全体最適リユース・リサイクル技術・システムの実証を共同で行う（センターはリユース／リサイクルシステム全体の事業性評価及びLCA評価を担当）。

(8) 使用済プラスチック回収・再資源化実証事業

クリーニングの衣類用カバー及び医薬品のボトルを対象品目として新たな自主回収・再資源化スキームを構築するための実証事業を実施する。

ア 実証事業の実施体制の構築

使用済プラスチックのリサイクルチェーンに係る関係者（排出者、製造・販売等事業者、収集運搬業者、リサイクル業者、再商品化事業者等）と効果的な回収・再資源化の方法等を協議し、各対象品目に関する実証事業の実施体制を構築する。

イ 回収・再資源化実証の実施

各対象品目について、関係者と連携して、実際に消費者、店舗等の排出者から使用済プラスチックを回収・再資源化する実証事業を実施する。

実証結果を分析し、回収・リサイクル量の確保や事業化に向けた効果的な回収・再資源化方法を検討する。

5 その他

環境問題が深刻化しているアジア諸国から参加した環境施策担当行政官等を対象に、環境保全や循環型社会形成に貢献する人材の育成のため、産学官民連携の取組及びその成果を紹介する等センターの取組を積極的に海外に発信する。